



Tulip Trade Event 2019



第4回となる Tulip Trade Event が2019年3月20日～22日に行われました。球根の宣伝を担う i-Bulb の Press-Tour に参加しましたので写真に沿って紹介します。

開会式は設立125年となる P.Aker Zaden & Bloemenbollen で村長さん、チューリッププリンセスの参加を得て行われました。この後、参加12社の内 Boots Flower bulb、Jan de Wit & Zonen、Bot Flower Bulbs、Jansen's Overseas を訪れた後 Keukenhof公園開園初日に訪れました。

P.Aker



設立125年を迎えた P.Aker 社で Tulip Trade Event 2019 の開会式が行われました。村長さんもお祝いに来てくれました。



チューリッププリンセスもお祝いに駆けつけてくれました。



切り花生産者向けの販売、輸出が主業務。

Boots Flowerbulbs



ここも切り花生産者向けが主です。タイプ別に分類、サイズ、ストック番号も明記されています。



Jan de Wit en Zonen



ここも切り花栽培家向けが主力。日本へ多くの球根を輸出しています。

Bot Flowerbulbs



ダーウィンハイブリッド Niigata 中生、高性、水耕栽培にも適します。

香りのあるチューリップ Roman Empire トライアンフタイプ、中生、切花用、水耕可。他に Ballerina も香りがある品種として有名。



最近発表になった新品種 Finn Schjøll ノルウェーのテレビ俳優の名前から。フリンジ咲き、晩生、水耕可。

Jansen's Overseas



他の会社と異なりガーデンセンター向け商品も豊富。球根付きチューリップは輸送費がかかるものの花持ちが良い。



ガーデンセンター向け花付き球根鉢物商品も様々。



チューリップ鉢物ガーデンセンター向け展示例。

Keukenhof



開園初日に関わらず早生のチューリップが見頃。



温室内ではチューリップが満開。



Jacoba van Beieren がお迎え。Keukenhof とは15世紀にこの土地の領主様であったJacoba van Beieren のお城 Slot Teylingen へハーブなどを届けたことより「お城の台所」「台所の庭」と名付けられました。



第70回目となる今年のテーマは Flower Power。32ha の敷地に100社から提供された700万球の球根が植えられ、たった8週間の期間に100万人が訪れます。



i-Bulbは球根業界の宣伝を担う組織で展示会などの際に園芸業界紙の記者、編集長を招きPress-Tourを行います。



筆者プロフィール：対馬淳一

昭和55年に千葉大学園芸学部を卒業後、青年海外協力隊の隊員としてシリア国ドウマ農業試験場に2年間滞在。帰国後大手種苗会社に入社、研究農場、オランダ駐在、開発部など12年間勤務。

オランダには2回、合計で7年間駐在し、当地に魅せられた私はここで生活することを選び、アールスメール花市場にある切り花輸出国会社へ転職、日本向け輸出業務に8年間従事した。

その後、日蘭の園芸交流をお手伝いする園芸事務所を立ち上げ、現在は園芸関係のガイド、翻訳、通訳を生業としている。ウェブサイト：www.tsushimaengei.nl